

No.19 ^{たか や じょう} 高屋城 (別名---コトイ崎城) 舞鶴市字泉源寺小字高屋他

- ・遺構---曲輪
- ・占拠---山頂
- ・標高---120m
- ・比高---115m
- ・遺跡地図番号---360

この城は志楽川の河口にあり。舞鶴市立東図書館から北方に見える。中世は、西、南東は海岸に面しており、海城としての機能を有していたと思われる。船着場は北西部の小字地中にあったといわれる。遺構は北尾根の標高60mに位置し、四段の削平地がある。そこから80m程南に長さ100m余りの削平地が広がる。さらに南西にある標高110mの場所は自然地形に近いが、削平された部分も見られる。

この城は陣城に使われたものと考えられる。「梅垣西浦文書」の「粟屋状」で、1544 (天文23) 年9月に粟屋久慶が、若狭武田氏に対して陣をしいたとしている「特ヶ崎」がこの高屋城のことであろう。その後、粟屋久慶は1555 (天文24) 年1月に若狭武田氏に敗れたとされる。

城主に関しては、「竹原家文書」などには粟屋丹後守とある。「丹後国加佐郡寺社町在旧起」は粟屋氏の他に、「古、一色左京家来大嶋但馬守」ともしている。「信長公御代 矢野藤平」とする近世地誌もある。

